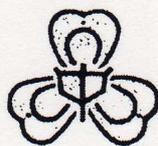


友よ!



東京・石中会だより

第8号



発行 東京・石中会広報委員会 事務局/〒253-0072 茅ヶ崎市今宿360-3-2-302 TEL&FAX/0467-85-7631
平成24年5月1日 事務局メールアドレス iida6636@piano.ocn.ne.jp

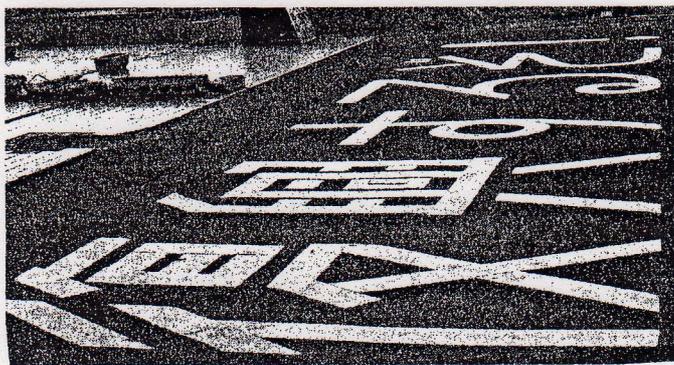
ふるさとリバイバル 寄り添う心と力を!

(その1) again石巻「世田谷ものづくり学校」イベント盛況 明日の石巻を担う若者へ全力バックアップだ

手記：村上 俊 (32回生)
NPO法人ジョブコーディネーター



◆瓦礫と荒廃の中に石巻魂の気迫を感じさせる看板



◆力強い文字に希望の2文字を伺わせる

震災支援企画「again 石巻」を2月11日、世田谷ものづくり学校で開催、石中卒業生の皆さんを含め、たくさんの方に会場していただきました。物産市や映画、トークショーを通して、「あの日何があったのか、それから、そして今」を、運営に参加してくれた若者たちが来場者に発信してくれました。

物産市には10事業所が出店、店舗が全壊した津田海苔本舗(石巻市渡波)は経営者夫婦が上京して参加、再会を待ち望んでいた首都圏のお馴染さんが遠方からも次々訪れていました。東北の産品が首都圏の生活とつながりの深いことを実感しました。運営の若者たちも売れ行きが悪い商品の仕入れ値を考えながら、複数を組み合わせてお客さんに勧めるなど、自分たちで売上アップの工夫をしていました。「ずんだ大福」や「味噌ピーナツ

ツ」など、石巻ならではの商品は早々に売り切れていました。

映画「大津波のあとに」「槌音」は午前・午後合わせて80人が鑑賞、終了後にはトークショーを実施。津田海苔本舗社長の「治安が悪く、窃盗ばかりか腹を刺されたヤツもいた。自衛のために枕元に刃物と木刀を置いて寝ていた」には、報道されていない現地の姿を感じ、「帰省の度に近所のお年寄りが小さくなっていく、長年住み続けた街の喪失感の埋め方が分からない」石巻出身の大学生の言葉にやるせない心情を感じました。

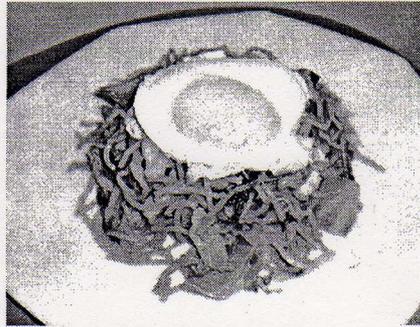
昨年11月から準備を始めた割にはバタバタ感ばかりの運営。仕入れ方法や運送方法の直前変更、機材の不備から「映画をなめてる」の叱責もいただいた。当日も広報の不徹底で午前のトークショーが飛んだなど、失敗のオンパレード。救いの神は運営に参加した世田谷若者サポートステーション登録者と石巻出身の在京大学生たちでした。1日拘束で牛丼一杯のギャラ、売上が伸びず販売時間延長、品質維持のために会場に暖房なしなど、文句の一つもあるだろうに・・・、しかし若者たちの感想は「楽しかった」「次も必ず呼んでください」でした。「何かしたい」の純粋さに、煩惱の固まりはただただ頭を下げるしかなかった。

今回出店した皆さんから「沿岸部の取引先が廃業、休業して販路がない。東京にその場が多くあると助かる」との感想がありました。自分だけががんばってもダメなんですね・・・、スクラム組まないと、チームにならないと。震災後、記憶に残った言葉に「がんばろうと百回言うより、一回がんばる方が力になる」があります。がんばる場を作ることが大切だと、来場者や若者たちからも教わりました。私はNPO所属と、比較的フリーな立場にいます。これまでは「首都圏から被災地に」が支援の主流でしたが、逆の支援を継続的にやりたいと思いますし、それが石巻出身者としての責務だと考えています。それには気持ちと同じくする同窓生の皆さんの協力が不可欠です。失敗もあり、得るものもあった今回のイベントを次の一歩につなげなければ。

(その2) 「んめなあ～石巻フードは！」(石巻焼きそば)



◆今や全国区となった石巻焼きそばは一袋3個入りでソース付きだ



◆定番の目玉焼きを乗せています

レポート：浅野 剛 (36回生)

皆様は「B-1グランプリ」をご存知でしょうか。「B-1グランプリ」とは日本各地のB級グルメを提供する「町おこし」の団体が一同に会して順位を競うものです。B級グルメとは、安価で日常的に食される庶民的な飲食物のことですが、この大会に私たちが石巻でよく食べていた「茶色い焼きそば」が

2011年の姫路大会では63団体中6位に入賞です。「茶色い焼きそば」は「石巻やきそば」というネーミングで全国に知れ渡っています。

私が石巻に住んでいた頃は、肉とキャベツ、ピーマン等がのっていましたが、今お店で食べると目玉焼きがのっているのが定番みたいです。私は東京に来るまでは「焼きそばは茶色いのが当たり前」と思っていました。この焼きそばは、二度蒸し上げることで麺は茶色になり、一般的にスーパーで売られている焼きそばよりも食感があっさりしています。また焼き上げ時にだし汁で蒸し焼きにすることで味に深みを与えます。

昨年の震災で石巻では「石巻やきそば」を提供していた飲食店の半数近くが営業できない状態になっているそうです。もし「石巻焼きそば」を食べる機会がありましたら、昔食べたことのある方は故郷の味を思い

～「石巻焼きそば」を購入いただいたお客様に、約束をさせていただきます～

私たちは必ず、復興します！

たくさんの方の量を作ることは出来ませんが、「石巻焼きそば」の提供を継続し、石巻の復興を支えたいとの思いから、今できる限りの生産を行っています。

震災前には6社あった石巻焼きそばの産地を提供している数社ありますが、1社はこの震災で廃業せざるを得なくなりました。

津波により、鉄板も、へらも、焼きそばを焼くあらゆる道具が、津波に流されてしまいました。しかし、「石巻焼きそば」のように、ご当地グルメで地域振興に取り組んでいる、他の地域の団体の方々からの援助もあり、流れてしまった道具も徐々に集まってきました。

現在では、生産を再開した産地、避難所の方々に炊き出しを行えるまでになっています。一歩ずつ、一歩ずつ、それは小さな一歩かもしれませんが、皆様からのご声援を糧に、必ずご恩返しをさせていただきます！

◆宣伝チラシも引っ張りだこだ

出してみてください。まだ食べたことがない方は今までと違った焼きそばをご堪能ください。おいしいですよ！！

「石巻焼きそば」は下記の通信販売で購入することができます。

<http://store.shopping.yahoo.co.jp/otr-ishinomaki/s01-001.html>

http://item.rakuten.co.jp/kabu-kanomataya/k001_1/

(その3) 「風邪引かないでネ」身も心も温まるお手製防寒ファッションを石巻仮設住宅女性へ寄贈



◆仮設住宅をくまなく回りプレゼントに奔走



◆向寒の折、被災された皆さんには最高の贈り物となった

報告：川島 あつこ (8回生)

2011年9月28～10月3日、東日本大震災救援活動として横浜・大倉山で開催致しました「糸とあそぶ手織り展」には、大勢の方々のご来場を頂き、多大なご協力を賜り、アンジェー同心からお礼申し上げます。私達も、半年かけて、被災された方々にマフラーを500枚織って準備しました。皆様のご厚意と一緒に被災地に届け、直接手渡ししたいという希望でしたが、被災地の様子を把握することが、なかなか難しく大変手間取り、やっと11月25～26日に4名で被災地石巻に行くことができました。津波で流された手織りの仲間、身障者の作業所、NPOで活躍されている方々に義援金をお渡しし、また私達が半年かけて織りためたマフラー350枚を、ちょうど寒さが訪れて来たときで、仮設住宅を1軒1軒回り手渡しでき、大変喜んで頂きました。直接被災地の方々と触れ合うことができ、想像以上の悲惨な状況を目の当たりにして、行ってよかったと思うと同時に改めて身の引き締まる思いで帰って参りました。皆様のお陰で今回このような形で実現できましたこと心から感謝申し上げますお礼と報告とさせていただきます。

アトリエ アンジェー同

(その4) 「ん〜と売れだせば」東京・町田市⇄石巻 交互物産展開催

青沼 義信 (3回生)



◆ぼっぼ町田スクエアでは開店前から人だかりだった

昨年8月20日から10日間「写真展・石巻」が町田市フォトサロンで開かれました。この展示写真は、町田市フォトサロンからの依頼で手配した石巻

羽黒町の池田写真店からの震災直後の写真40点余・石巻市立女子高卒の写真専門学校生阿部京花さんからの自身が暮す避難所写真40点・竹内敏恭氏(石中13回生竹内政子さん夫妻)からの震災前の石巻市内写真40点の3名の方が出展されたもので、非常に反響を呼びました。

今年1月の町田市成人式には、展示写真のうち避難所写真が数点成人式舞台に投影され、成人式行事の一翼を担ったとのことでした。

今年の1月28日29日には東日本大震災復興支援の一環として町田・石巻物産展交流イベントが石巻の「アイピア商店街イベントスペース(旧みやぎ生協)」と町田市の「ぼっぼ町田イベント広場」とで同時開催され、町田では



◆さまざまなデザインのTシャツ・タオル類も好評

4張りのテントに石巻から海産物や石巻焼きそば等の店が並び賑わっていました。

この交流イベントがきっかけとなり、町田市鶴川の鶴川団地の

春の恒例イベント「第9回エイサー・よさこい祭り」に石巻のよさこいチーム「山下エンヤドットコム」を招き、町田の「エイサーよさこいチーム」と競演のほか東北の物産展も行われました。昨年から今年にかけ、私が4年間過ごした町田と石巻の交流が急激に深くなったように思われ、嬉しくなりました。また、溝辺佳代子さん(26回生)の奮戦も見事。



◆これからも永いお付き合いとなる交流イベント誕生だ

(その5) かんがるーの会第2回チャリティイベントを終えて

坂口いく子 (16回生)



◆2回目開催も大好評だったパンフレット

東日本大震災より1年を迎えて、2012年3月11日に私達カンガルーの会では、たくさんの方のお

集まりをいただいて、ふるさとに思いを馳せ、祈りのイベントを行いました。石巻在住の佐藤保生医師の講演「津波が教えてくれたこと」では、1年前の生々しい出来事・石巻の今を知ることができました。午後2時46分、黙祷にて犠牲となられた方々へのご冥福を祈りました。休憩の後、一流の演奏家による木管アンサンブルコンサート「祈りの花束」では、個々の楽器の特徴や音色など、楽しいお話の中にわかり易く聴かせてくれ、合奏での美しい音色に、うっとりとした時間をすごしました。とても充実した時でした。

埼玉川越に住んでいる私も、何かをしたいが、故郷へはなかなか頻りに足を運ぶことが出来ない身としては、なんとなく落ち着かない気持ちでございました。しかし会場でも同じような気持ちの方々と話すことができ、心とむ気持になりました。

ここで、かんがるーの会についてお伝えいたします。

2011年3月11日の東日本大震災で親を亡くした、ふ

るさと東北の子供たちを支援することを目的として、石巻圏(石巻市・女川町・東松島市)登米市出身者で立ち上げた会です。カンガルーが袋で子供を守るように、みんなで子供たちをそっと支えるお手伝いができればと考えています。未来ある子供たちのために、今後10年間の支援を続けてまいります。

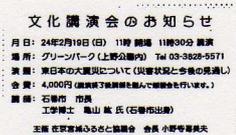
ぜひホームページをご覧ください。そして「かんがるーの会」に入会をお願いいたします。(年会費無料)

kangaroo.no.kai@gmail.com FAX 042-729-3206

自分の出来ることを出来るところでコツコツと継続することを目指し、次回にむけて準備していきたいと思えます。同期の葉良枝さん、渡辺啓子さんと共に協力し合って長期の支援を続けていきます。今後ともよろしくお祈りいたします。

(その6) 亀山紘石巻市長インタビュー

首藤 光春 (8回生)



◆毎年恒例の文化講演会ポスター

在京宮城ふるさと協議会が毎年1回主催する文化講演会が、2月19日、上野グリーンパークで開催された。今年のゲストは被災地の代表として亀山石巻市長が招かれ、被害状況、今後の対策など2時間近くにわたって熱弁を振るった。講演後、立ち話インタビューを試みた。
— 先ほどの講演でも全

ての面で石巻が最大の被害を被ったことが、よく分かりました。復興策を教えてください。

〈亀山市長〉 まずイの一番には暮らしを取り戻すこと。仮設住宅からの開放と共に生活者同士のコミュニケーションを図り、早く自助でき人命を守る事を推進しています。とくに高齢者の健康維持対策に配慮しています。

— 復興が遅れていることに不満が限界にきていて市民流失が深刻だといわれているようですが・・・

〈亀山市長〉 基本理念として①産業復興です。特に水産業が緊急課題。石巻の基幹産業ですからね。②企業の維持再建も欠かせません。日本製紙をはじめ飼料、造船などの企業を守ることも併せて大事です。これによって、継続を保持可能になるわけです。③には雇用の確保のために水産加工業者の復興の面で、魚市場周辺の嵩上げが不可欠です。

— 復興期間として、どれくらいの年月を考えていますか。

〈亀山市長〉 10年間で何とか復興させたいと考えています。まず3年間で再生、プラス4年間で復興、残り3年で発展という計画です。問題は国家予算がしっかり組んでもらえ

ないと始まらないですから、矢の催促の毎日です。雄勝はじめ半島地域では、住まいの高台移転や農地の転用問題など、住民合意という難問も抱えています。

— 首都圏地区でも石巻物産展などが活性化して、私達「東京石中会」でも支援できることは全力投球しよう、という意欲でとりこんでいます。

〈亀山市長〉 本当にふるさと石巻のためにさまざまな支援を頂き、感謝に堪えません。先日東京・中央区長とお会いし、雄勝の物産を主とし「オー、ガッツ」展などを積極的に推進していくことで、お約束いただいたところで。

— 東京石中会も被災からいち早く義援金を募集、250万円余を手渡ししようと飯田事務局長が訪石しました。市長とはお会いできずじまいだったようです。

〈亀山市長〉 多忙をきわめており失礼しました。感謝で一杯です。心身共に極限状態の折でもありました。石高時代、サッカー部で鍛えたおかげで挫折しないで済みました。

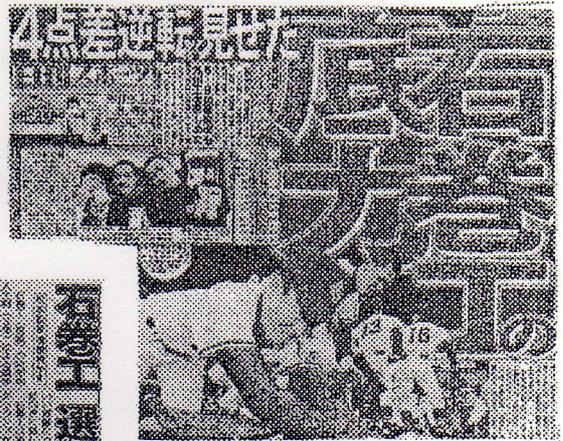
— 体力のお釣りがあってよかったです(笑)。貴重な時間ありがとうございました。

石巻工高野球部ありがとう！ 全国に与えた感動、勇気そして笑顔

(構成・文)：首藤 光春 (8回生)



◆阿部翔人主将感動の選手宣誓



◆各スポーツ紙もこぞって讀えた

◆選手宣誓全文

東日本大震災から1年、日本は復興の真っ最中です。被災された方々の中には、苦しくて、心の整理がつかず、今も当時の事や亡くなられた方を忘れられず悲しみに暮れている方がたくさんいます。

人は誰でも答えのない悲しみを受け入れることは苦しくてつらいことです。しかし、日本がひとつになり、その苦難を乗り越えることができれば、その先に必ず大きな幸せが待っていると信じています。だからこそ、日本中に届けます。感動、勇気、そして笑顔を見せましょう、日本の底力、絆を。

われわれ、高校球児ができること、それは全力で戦い抜き、最後まで諦めないことです。今、野球ができることに感謝し、全身全霊で正々堂々とプレーすることを誓います。

選手代表 宮城県石巻工高野球部主将 阿部翔人

◆宣誓文の全容素晴らしい巨編だ



◆名宣誓文は後世に石碑として残されるという

に日夜奮闘し臨んだ夢の甲子園出場だった。使用できない不自由さに進んで室内練習場貸与を申し出た社会人の強豪・日本製紙石巻工場野球部。さらには県外からも暖かい手が差し伸べられた。大阪の春日丘高野球部からは十分な数のボールが送られ、甲子園スタンドではアルプススタンドで大応援団が精一杯の声援で後押し。出場校からは聖光高(福島)のエース岡野が石巻出身で阿部主将らと少年野球チームで一緒という縁もありメール交換で激励しあったという。また浦和学院高もボランティア精神を発揮、グラウンド復旧へ汗を流す友情など球児たちの強い絆に支えられた。こんなエピソードもあった。選手宣誓の大先輩が石巻高校野球部だ。昭和23年夏の甲子園出場を果たした折、石川主将の宣誓文が参考書にも載った。ユニークな話題としては松本監督は「石中時代からバスケットボール部で野球経験は無いよ」(同期生・浅野剛さん)。野球は素人でも教育者としては正真正銘の玄人である。石中出身の誇るべき名指導者に大拍手は鳴り止まない。

被災地代表として第84回全国選抜高校野球大会に初出場し、日本中の注目を集めた石巻工高。全てに見事の二文字に尽きた。初戦5-9敗退(対神村学園=鹿児島九州チャンピオン)とはいえ4回には5-4と一時は逆転という粘りで沸かせた。「諦めない街、石巻。俺達はその力になる」のスローガン通りの展開で底力をみせた。「敗れてなお強し」絶賛の嵐に包まれた。そして「ありがとう！石巻工」の大合唱となった。

大津波でドロ沼と化したグラウンド。松本嘉次監督(44)の掛け声に失望のどん底からナインが総決起練習ができる



◆石巻魂は全国へと喧伝され伝播されていった

までに復旧させた。日本中を感動させた阿部翔人主将の選手宣誓の文言に志の全てが表現実行されていた。市内の各高校野球部、自衛隊を筆頭にグラウンド整備

石巻の復旧・復興のため、頑張っています。

電話0225(22)2671 栗野蒲鉾店	水産庁長官賞に輝く名品 井上海産物店 電話0225(22)1030	海産物のお土産なら そば処もりや 電話0225(22)1842	老舗の美味しいおそば宴会合 いしのまきらいふ 電話0225(93)7718	コミュニティタウン誌 藤間流師範 藤間京緑 電話0225(96)7080	日本舞踊稽古所どうぞ(山下町) 寶来寿司 電話0225(22)1258	味が宝、のれんも宝の老舗 サルコヤ 電話0225(96)3658	玩具や楽器のことなら
--------------------------------	--	--	--	---	--	---	------------

「鉄と共に生きる」 熱く語る 鈴木健司さん (8回生)



◆大震災後の石中で講演する鈴木健司さん

恒例行事となった母校における教育講演会は、7回目を迎える。

3・11の忌まわしい大惨事後、石中は実施できる状態なのか心配だった。

というも、震災2カ月後の5月上旬に石中を訪問したときは、体育館が避難所となり、校長室のテーブルの上には布団が置かれ、床には段ボールが山積みされていた。そんな状況を見て、当時の境校長(現在は石巻市教育長)に実施困難ではないかとお聞きしたところ、

「このような時だからこそ、実施したいのです。」とはっきり言われた。幸いなことに、その後の情報で10月上旬には避難されていた方々が体育館から仮設住宅に引っ越されて、学校としての機能が戻ってきたようだ。

2011年12月5日(月)、「2011年教育講演会」は予定通り実施されることになった。

この日は講師の鈴木健司さんに同行して、早朝の新幹線で仙台まで、仙台から宮

交バスで三陸自動車道を通って石巻駅前に到着して12時に石中の玄関で横澤校長の出迎えを受ける。

講師の鈴木健司(72才 石中8回生)さんは金属材料を専門とされた技術屋さんで、長年歩んでこられた経験を生かして『鉄と共に生きる』を主題に、「ものづくりの楽しさ」を後輩達に語りたいと望んでいた。

講演内容は、この世の中は「鉄」なしでは考えられないほど、広く利用されている。

「その鉄はいったいどのように生まれ、どのように利用されてきたのか。」を科学的に解き明かし、「鉄に命を吹き込む熱処理の技とものづくりの楽しさ。」を日本刀を例に挙げて技術者として

熱く語った。最後に「鉄の堅い話ばかりでしたので」と、故郷石巻を思う鎮魂の自作詩の朗読で幕

を閉じた(朗読は同行した飯田紀美子さん)。

鈴木健司さんは、石高・早稲田大学を卒業され三菱重工(株)に入社、その後キャタピラー三菱(株)を経て、現在は熱処理企業組合の事務局長として勤務している傍ら、わらべ歌などの詩作の趣味をつづけている。(同行記・飯田勝紀)



◆先輩の話に熱心に聞き入る

【朗読された詩の一節】

ふるさとの色 (一日も早い復興を願って)



あの頃の よかった頃の ふるさとの
懐かしいあの色は きれいだったあの色は
どこか遠くに消えました

いくたびか 花咲く春を 重ねれば
きれいな花の色に似た よかった頃のふるさとが
戻りますように祈ります

春に咲く 愛しい花を 眺めては
遠いふるさと想います 悲しい日々を乗り越えて
朝日に光るふるさとを

ふるさと 詩歌
詠み人 鈴木 健司(8回生)

幸せの色 寂しい色

1 あのね
幸せって どんな色

それはね
百合のような 白い色
静かな野辺で 清らかに
光の中で 輝いて
咲いてる百合の 白い色

2 あのね
寂しいって どんな色

それはね
涙のような 青い色
一人ぼっちの 秋の夜に
遠い故郷 想うとき
こぼれる涙 青い色

気軽にご相談ください。

弁護士 鈴木 雅芳
(26回生)

多田総合法律事務所

〒105-0001

東京都港区虎ノ門2-8-1 虎ノ門電気ビル3階

TEL: (03) 3597-8855 FAX: (03) 3597-8856

E-mail: suzuki@ts-law.jp

石巻の被災者慰励演奏「感動の音色響け」

手記：井上 俊次 (33 回生)
読売日響ファゴット首席奏者



◆母校・石中でのファゴット演奏は感動の涙で会場を埋め尽くした

音楽家として自分は故郷にどんな貢献ができるのか？

震災後、それを悩み続けた昨年5月連休の初め、妻と石巻在住のピアニスト星由貴さんの助けをお借りして、母校石巻中学校の境校長先生のご協力を得て、体育館で3人の小さなコンサートを開くことにしました。松戸の自宅でチラシを作ってあったので、コンサート前日にはそれを配るために、当時まだ避難されている多くの方が住ん

でいた石中体育館に入って行きました。その中はよくテレビで見ていた避難所の景色そのものでした。彼らには家がない、財産もない。もしかしたら最愛の人を失ったかもしれない。ところが僕に家も財産もあり何も失っていない。その僕がこんなところに来て演奏しても良いのだろうか？もしかしたら、彼らに「何しに来た？関係ないやつは出て行け」と言われるのではないかという不安をかかえつつ、僕は必死の思いで近くの人にそのチラシを配りました。すると、その人は「演奏するの？ありがとう」と言ってくれたのです。その瞬間僕の目から涙が止まらなくなり、しばらく立ったまま顔を

覆って号泣してしまいました。石巻の人たちは自分たちに突きつけられた事実を受け入れ、平常心を取戻してきているのに、僕はこの状況に圧倒され、びくついてどぎまぎしているだけでした。その時石巻の人たちの強さを改めて実感し、その立場の違いを怖がって遠慮しては何も前へは進まないと感じ、気持ちを新たにしました。目を赤くしたまま体育館と校舎へ避難している多くの方へチラシを配り、翌日のコンサートでは40分ほどの短い演奏を無事終了しました。寝ているお年よりや様々な生活のペースに割り込む形で行われた小さなコンサートでしたが、コンサートの終わりには舞台からたくさんの笑顔を見ることが出来たのが、本当に嬉しかったです。終わった後で、このコンサートを聴きにわざわざ郊外から駆けつけて来てくれた方がいたというお話を関係者から頂き、来て良かったと実感しました。

5月末にはフルーティストの岩沢あいらさん、星由貴さんの3人で門脇中学校、湊小学校、女川総合体育館、清優館(牡鹿半島)で演奏してきました。それによって誰も癒されなかったかも知れませんが、でも1人でも「おもしろかった」「良かった」と思ってもらえたなら僕はそれで十分です。これから音楽家として何が出来るのか？またそれを新たに問い直しています。



哀悼 井上勝夫さん(広報部長)さようなら



《愛情、気配りに溢れた頼れる男》徳江 明 (5 回生)

「えっ？」一瞬、言葉を失いました。上原氏からの電話に本当に驚きました。昨年9月10日、急性骨髄性白血病で入院中の君が亡くなったとは。入院期間はわずか3カ月。昨年3月、同期会の際に見たいつもの温和な君の笑顔が最期でした。

君とは石巻小学校当時から同

じクラスだった私の頭の中で、さまざまなが走馬灯のように駆け巡りました。皆から「カコちゃん、いのちゃん」と呼ばれ親しまれ、頼りにされていた君は、周囲への気配りと優しさでは常にトップクラスでした。小学2年のとき「お話会」で、素晴らしい童話の語り部の役を実にスマートに演じていた君の様子が、はっきり頭の中に残っています。君は卓越した実行力と企画力を持ち、長い間「東京石中会」広報部長として、また石中同期会代表幹事、その他の団体役員として実力を発揮しました。享年75歳、実に早すぎるお別れです。

いつも柔和な表情を浮かべていた君は安易には人に従わず、自己の信念を貫く芯の強さも併せ持ち、また子に恵まれない反面、夫人への愛情、気配りには深く強いものがこもっていました。君と同時代を生きてきた一人として、

君を失ったことは誠に残念でなりません。東京石中会、同期会にとり大きな痛手です。私たちは君の志と業績を引き継いで、同窓会、同期会を運営していく所存です。カコちゃん、壮絶な闘病生活にさぞ疲れたことでしょう。もう、頑張らなくともよいのです。安らかに眠ってください。

《カコちゃん、やんちゃ、いたずら石中時代》上原 藤三 (5 回生)

カコちゃん(井上勝夫君)何で先に逝ってしまったんだ。小学校、中学校、高校と同じ学び舎で一緒し、上京後も同窓会の準備を手伝い、奥様と3人でゴルフをしたりしていたのに、何で何で先に逝ってしまったんだ。知り合ってから60余年の付き合いなんで短かすぎるんじゃないか。でももう、カコちゃんはいない。60余年の思い出を

振り返ってみようと思うが。

なじよだ、よがすか、うんたら書くからな。まずは中学さ入ってから間もなく、昼休みに男子だけで「鬼ぶくろ」をすたっけ。鬼に追われて校外へ逃げたっけ、時間の経つのも忘れて5時間目の授業(佐藤はるよ先生)を潰させてしまい先生を泣かせてしまい、担任のデンスケ先生(阿部宏先生)に廊下正座の罰を食い延々と説教され、過ぎた時間がさらに1時間プラスされ(英語=デンスケ先生の授業)、結局、午後の授業はなし。また学芸会を控え演劇の舞台装置の背景を作る際、下取りに使う古新聞に掲載されていた広告欄を見つけ、また悪戯の材料が浮かんだ。なんと避妊薬、用具文字面をわざと表面に出し貼り付け、出来栄確認と称し河村昭子先生に「先生、これはどんな時に使うんですか？」と冷やか

I 石巻賛歌 さかな記者がみた大震災 高成田 享著



念願かない「さかな町」で筆を振った朝日新聞の名物記者が描く石巻と東北再生の物語。高速道の東松島にある矢本パーキングを過ぎると眼前に石巻平野が開ける。石巻に住んでいるときは、ここまで来ると、右手の方向にある日本製紙石巻工場からの煙がいくつも見えて、石巻に戻ったという感覚があった。しかし、今回は、煙はまったく見えず、代わりに瓦礫の落ちていた田畑が見える。(中略) とりあえず目指したのは市内の高台にあたる日和山にある熊谷伸夫妻の家だ。たどり着くと、家からふたりが飛び出してきた。震災後、初めて会う石巻の友人ただだけに、涙がとまらなかった。(講談社 1,429円)

II 6枚の壁新聞 石巻日日新聞7日間の記録



2011年3月11日、東日本大震災が起こり、東北地方を大津波が襲った。宮城県地域紙・石巻日日新聞社では、輪転機が一部水没。創刊99年の新聞発行が危機に立たされる中「電気がなくとも、紙とペンはある」と手書きの壁新聞を決意する。家族・親族の安否もわからない中、記者たちは最前線で取材を繰り返した。避難所などに貼り出された壁新聞は、被災者の貴重な情報源となり、人々を励まし続けた。「伝える使命」とは何か。震災後7日間の記者たちの葛藤を追った。テレビでスペシャルドラマ化。(角川SSC新書 933円)

III 東日本大震災記録映像DVD 宮城・石巻地方沿岸部の記録



このDVDは「ふるさと石巻の被災状況を知りたい」という声に応じて制作したものです。変わり果てた故郷、消えた故郷 M9.0の巨大地震、そして大津波の襲来 多くの尊い「命」と「日常」が奪われた 誰もが想像しなかった受け入れがたい現実 その時・・・「明」と「暗」、「生」と

「死」を分けたものはいったい何か 記録映像と証言は次世代に何を問いかけているのか。(制作・発売 ビデオプラザ神奈川 本社・石巻 TEL 090-2996-3035または090-2987-3036 1,000円)

IV 在宅被災者 / 石巻市の被災者支援提言 布施 隆一&高成田 享



復興から取り残される在宅被災者についての現状と支援提言をNPO法人フェアトレード東北理事長であり地域づくり総務大臣賞、日本青年会議所人間力大賞受賞などの経歴を持つ布施氏と石巻をこよなく愛するジャーナリスト高成田氏が「二階族」「なぜ仮設に住まないのか」「厳しい在宅の暮らし」「広がる仮設と在宅との格差」「孤独死

をださないために」「地域包括ケア」の視点などについて詳細に記述している。私たちが石巻市の委託事業として請け負った「巡回型被災高齢者など訪問事業」の金額は6000万円です。2011年度末までに30人を雇用。震災復興のための緊急雇用事業の一環になっている。(岩波書店発行「世界」4月号 840円)

す。先生曰く「大人になったら分かります」と一蹴されたことなど思い出すね。カコちゃんとは思い出がありすぎ、とても紙数が足りませんので、この辺で楽しくもあり苦かった一席は終わり。カコちゃん、ゆっくり休んでね。冥福を祈っているよ。

《復興を天上から見守ってね》

早川 幸子(5回生)

井上さん、そちらから下界が見えますか。今、東京は桜が満開。花の下にはお花見見物で大変賑わっているんですよ。

井上さんとは昨年3月5日、関東在住の5期生同期会でお会いしましたね。いつもの会がそうであるように、皆で盃を酌み交わし、懐古談に花を咲かせました。井上さんのジョークを交えた楽しい会話は、満場を沸かせましたね。そして来年の再会を約束しお別れしました。その6日後、あの忌まわしい大震災による大津波。青天の霹靂とはまさにこのことをいうのでしょうか。TVに映る恐ろしい光景に震えるばかりでした。ああ、石巻が無くなってしまおう！井上さん、ご実家のサルコヤさんも被災され大被害を受けたとのこと。その後しばらくして入院さ

れた由。いつも健康には人一倍気遣っていらっしやっただのに。石中卒業以来50年同期会でお会いした折、東京石中会の存在を知りました。素晴らしい先輩、後輩の方々と石巻復興のほんの少しお手伝いができることを幸せに感じております。井上さん本当にありがとうございます。ご冥福をお祈りします。石巻の復興を天上から見守っててくださいね。

《天国の井上さんへ》

鈴木 恵美子(5回生)

なぜそんなに急に天国へ逝ってしまったのですか。この石中会にお誘いになったのも井上さんでしたのに。井上さんの熱心な説得がなければ、今日まで石中会には在籍していなかったと思いますよ。そして微力ながら、故郷への恩返しのため今日まで、私なりに尽くせたら、の思いで参加して参りました。同会を立ち上げた3回生、4回生有志の熱意と努力で築きあげた基盤を崩さぬようにと、強く感じております(偉そうに!)。井上さんが幹事で開かれた、卒業後何十年ぶりの5期生同期会での懐かしい顔ぶれがきっかけでした。その中で現在の役員も責任を果たしておられる上原さん、早川さんと

の再縁でもあったのです。忘れかけていた郷里のさまざまな想い出も甦って、郷土愛に強く打たれました。首藤会長のユーマア溢れる石巻弁も、とても懐かしく、会議を和やかな雰囲気してくれています。また、飯田事務局長の手腕で、会議進行もスムーズなものにしてくれています。他の役員もそれぞれ秀れた才能を持ち合わせ、力を十分に発揮され石中会を充実させています。でも井上さんが焦って逝ってしまったことは、図書館を三つも四つも失ったと同じなのです。なぜ、なぜ私たちを置き去りにして天国へ旅立たれたのですか。闘病生活のことも知らなかったことで自分を責める次第です。

また、悪夢のような東日本大震災。信じられない大惨事。TV画像の数々、余りの悲惨さにスイッチを切ってしまいます。でも、皆さんは復興に前向きで、役員一人一人が力を合わせて頑張っておりますよ。もちろん天国で見守っておられると思います。さらに津波で弟さんも失われ、心残りが数多く、安らかに眠れなかったでしょうね。でもカコちゃんのお分、お兄さん(サルコヤ店主)、甥子(俊次さん)ご夫妻で頑張っておりますよ。どうぞ安心して、石中会のますますの発展を見守ってくださいね。

新役員 ご紹介

平成24年1月から若手の新役員が2名加わりましたので紹介します。

清水昭浩さんと村上 俊さんが石巻復興支援活動が縁で新役員としてお手伝い願うことになりました。両氏とも32回生で49才の若手現役バリバリです。よろしくお願いします。

年会費の納入、ありがとうございました。

●平成23年度・東京石中会・年会費払込者名簿

(3回生) 阿部 剛、坂本 武久、小林 敬子、大木 郁子、森山 滋之、加藤 英子、秋保 光子、水澤 晃、武山 勝、後藤 久男、青沼 義信、嶋田 寿子 (4回生) 森田 享子、大西 葉子、阿部 剛夫、三浦 貞夫、井上 英治、粟野 登茂江、大熊 正子、金野 和夫 (5回生) 徳江 明、松本 悦子、遠藤 明夫、佐藤 仁子、阿部 道子、阿部 寿郎、小松 悦子、越後 京子、石井 弘志、島子 妙子、鈴木 恵美子、亀井 彰朗、早川 幸子、上原 藤三 (6回生) 中村 繁子、藤澤 俊、細川 金子、長崎 紀久子、相澤 昌男、鈴木 季子 (7回生) 芳賀 鐵夫、田上 富美子、橋本 洋二、金澤 功 (8回生) 金森 喜美子、鈴木 健司、松田 勝治、菅野 邦子、市川 洋子、古胡 満子、樽見 和子、佐藤 恭子、高橋 静子、高嶋 展広、川島 あつ子、澤田 知子、御牧 道子、山手てい子、畠山 尚、塩谷 洋子、首藤 光春、梅沢 治子、元安 茂子 (9回生) 山川 孝子、加藤 照子、高橋 洋治、後藤 安男、梓田 洋子、森 孝二、早田 光、野崎ナホ子、田中 龍子、伊藤 幸子、喜友名 典子、飯田 勝紀、滝川 喜久子、板垣 和子、菊池 正、加藤 行雄、青山 さわ (10回生) 三浦 照雄、加藤 幸子、川野 澄子、濱 道子、勝又 勝、矢澤 節子、緒方 正子、杉山 富子、大串 一枝、齋藤 宣子、柏木 礼子、角田 守弘、大高 朋子、奥村 カツ子、本田 生子、今井 和代、高泉 正勝、田代 勝彦、菅ヶ又 桂子 (11回生) 栗石 登志子、渡邊 みよ、三宅 靖代、池永 喜美子、後藤 永子、菊地 保夫、高井 篤三、栗原 光男、鳴海 佳子、間部 和子、加藤 護 (12回生) 西條 修、中塚 克子、小林 美智子、吉田 義男、奈良坂 仁、南里 憲三、金澤 由紀子、杉山 博茂、夏目 都喜子、江尻 益子、榊 経子、佐藤 正克、安田 淳子、岡崎国男、岡崎好子、粕井 あき子、村上 秀一、今井 あい子 (13回生) 竹内 政子、岡田 ちず子、赤塚 誠哉、勝島 節子、星 貞子、植草 良子、保坂 智子 (14回生) 川原 泰子、武山 和子、細川 忠勝、山中 圭子、鈴木 照子、梅沢 智、高橋 真理 (15回生) 片山 洋子、西條 紀郎、畠山 清光、山形 昌子、太田 とし子、今井 恵子、星澤 晋、今野 和子、星 憲夫 (16回生) 大久保 和夫、坂口 いく子、星澤 正孝、渡辺 啓子、岡 康博、佐藤 政彦、青山 恵介、園田 美智子、後藤 悦子、葉 良枝、森岡 芳朗、吉田 義弘、熊谷 徹 (17回生) 佐藤 真木男、熊谷 道夫、今野 雅隆、佐藤 秋男 (18回生) 石森 邦昭、浅野 和雄、高梨 誠、中西 園子、小笠原 けい子、田村 隆、岩崎 久仁夫、吉田 りり子、小野 恵久子、本橋 富久子、西田 美知子、齋藤 慶子、山口 広治、加藤 友成 (19回生) 杉山 茂 (20回生) 渡辺 節子 (23回生) 岡田 文彦 (25回生) 星野 祐一 (26回生) 渡辺 淳、鈴木 雅芳、高橋 裕子、大久保 多賀子 (29回生) 阿部 泰 (32回生) 清水 昭浩、高橋 英二 (33回生) 井上 俊次 (34回生) 星野 知倫 (36回生) 浅野 剛 (以上順不同)

※会費を納入された方で、お名前記載がない方は、事務局までお知らせください。

●寄付者 石井 弘志 (5回生) ●復興支援募金者追加 大久保 多賀子 (26回生)

お振り込みに際してお願い

窓口を通してお振り込みされますと、手数料が120円徴収されます。振り込み用の機械(CD)で振り込まれますと、手数料は80円となります。できるだけ、振り込み用の機械(CD)でお振り込みされますよう、お願いいたします。(平成23年度会計報告は今年6月総会にて行います。)

東京・石中会への寄付

東京・石中会も今年で10年目に入ります。会の運営は、基本的には同窓生皆様からの貴重な年会費を財源としておりますが、事務費用その他の活動で、財政的にはまだまだ脆弱な面を有しています。東京・石中会では、引き続き皆様からの貴重なご寄付を受け賜っております。ご芳志は、下記事務局宛にお送りくださいますようお願いいたします。

飯田 勝紀

〒253-0072 茅ヶ崎市今宿360-3-2-302

〈東京石中会〉ホームページのお知らせ！！

東京石中会の情報だけでなく、石中や石巻情報なども載せてあります。ぜひご覧ください。

<http://book.geocities.jp/tokyosekichukai/index.html>

第9回

東京・石中会

6月17日(日)

開場 11:30
開宴 12:00

八重洲富士屋ホテル 中央区八重洲2-9-1

感想・ご意見をお寄せください

「東京石中会だより」第8号はいかがだったでしょうか。皆様のご感想やご意見をお聞かせください。皆様からの声を活かして、皆様から愛される広報紙にしたいと思っております。

投稿、大歓迎！

復旧復興への思い、石巻への思い、中学時代のことや最近石巻を訪れて感じたこと、イラスト、俳句など大歓迎！皆様からの投稿をお待ちしております。投稿にはお名前、ご住所、回生、電話番号を明記の上、2000〜4000字くらいにまとめて左記事務局まで郵便でお送りください。

宛先：東京・石中会 事務局

飯田 勝紀 〒253-0072

茅ヶ崎市今宿360-3-2-302

事務局だより

昨年は「3・11東日本大震災」の大惨事に見まわれ、むなく定例の総会を中止にせざるを得ませんでした。年に1回皆さんが集う総会を楽しみにしていた方には申し訳なく思っておりますが、その代わり会報「友よ！第7号」の充実を努めてきました。この中で報告させていただきましたが、多くの方から復興支援金の募金に参加していただき有難うございました。事務局に何人かの方から激励の電話が入り、やりがいを感じました。皮肉なことに故郷が災難にあつて、会員の絆がより一層強くなったように思いました。今後とも会の発展充実に向かって役員一同努めてまいりますのでよろしくお願い致します。

会員の皆様方にお願いがあります。昨年の10月に会報「友よ！第7号」をお送りした際に、平成二十三年度分の年会費の納入をお願いしたばかりでしたが、今回は平成二十四年度の年会費の納入をお願いすることになりました。大変心苦しいのですが、会の運営は皆様の年会費で行われております。当然のことながら、年会費の使途は浄財としての判断から、会報の発行費と郵送費、会議会場費、母校教育講演会講師派遣費等に有効に使わせていただいております。年に7回行われる役員会議は、皆さん手弁当で交通費0円のボランティアで行われています。

ご理解の上協力のほどよろしくお願い申し上げます。

事務局長 飯田 勝紀

編集・広報
委員会スタッフ

委員長 市川 洋子
委員 首藤 光春
委員 鈴木 健司